

▼東京ニューシティ管弦楽団

第77回定期演奏会

震災で中止となった待望の公演。楽団創立20周年の作曲賞として審査委員長内藤彰、審査員新実徳英、西村朗、曾我大介により42曲から選ばれた1位の佐藤絵理《瑠璃船》の初演から。瑠璃船とは私達の住む地球の比喩。自然破壊・環境保護を訴えるような作曲者の解説文を辿るように、温暖化・山火事・突然変異の生物などパネルをめぐるようにシーン音楽が羅列されていく。現代音楽的な技法・書法などをフォローしては

いるが、あまりに説明的で青年の主張を音楽で聴くよう。音楽の奥底から立ち上る大人の芸術作品としてのデモーニッシュさが欲しい。以上、指揮は曾我大介。ブルックナー《交響曲第8番ハ短調》のアダージョ2プラス遺贈稿等による新版初演は同団の活動でも世界に評価された意義ある公演であったが、今回はノンヴェイブラートで初演（再演）。内藤彰の指揮も熱のこもった真摯なもので、荘重な音楽から、清冽にして独自の存在感も引き出していた。（9月8日、東京文化会館）

（西 耕一）